

追 悼



森 崇先生を偲んで

名誉会員の森 崇先生が、2022年3月21日に96歳で逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

清水忠男

ご略歴：

1926年 東京都生まれ

1949年 東京工業専門学校（現千葉大学工学部）建築科卒業
以降 東京工業専門学校、千葉大学工学部建築科、
千葉大学工業短期大学部工業意匠学科教員を経て

1983年～1991年 千葉大学工学部工業意匠学科教授

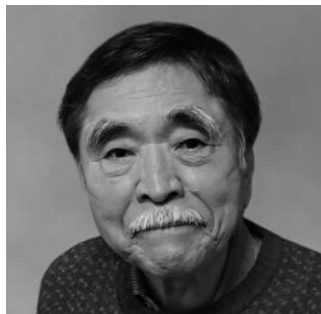
1992年～1996年 聖徳大学短期大学部教授

- 主な著書：「ディスプレイ・デザイン—展示計画入門」「出会いの味」「続 出会いの味」「続々 出会いの味」
- 主な論文：エキジビション計画の研究 1～4 日本デザイン学会
- 主な作品：第6回～第20回東京モーターショウ会場構成
第7回／第8回東京国際見本市会場構成
大利根博物館基本設計
- 主な受賞：水族館「新制作協会展新建築賞」
C大記念講堂「新制作協会展新作家賞」
朝日新聞社・万博へのアイディアコンペティション・銀賞

研究室では、生活環境デザインやディスプレイデザインの指導にあたっておられました。建築や大規模催事場の空間演出において実績のある先生だけに、スケールの大きなイメージを持つことの重要性を示された一方、生活環境デザインの指導においては、細かいところまで気を配ることの大事さを示されておられました。また、人や様々な自然現象との出会いを大事にする姿勢は、日本各地をドライブしては、その地の風景を写生したり、庭先の草花の精密画を描いたり、俳句の世界を楽しんだりされるご自身の生き方において示されておられたように思われます。そのような先生のご薫陶を受けて巣立った多くの卒業生たちが、いま、広い領域で活躍しております。ありがとうございました。



追 悼



車政弘先生を偲んで

工藤芳彰

名誉会員 車政弘先生が2023（令和5）年2月12日に逝去されました。享年78歳でした。

先生は1944（昭和19）年、福岡県に生まれ、県立修猷館高校から金沢美術工芸大学美術工芸学部産業美術学科に進学されました。卒業後は私立筑陽学園高等学校産業デザイン科教諭（1967～）、九州芸術工科大学工業設計学科室内設計講座助手（1970～）、広島県立工芸試験場デザイン部研究員（1976～）と、デザインの教育・研究・開発に関するキャリアを幅広く積まれました。1980年に九州産業大学芸術学部デザイン学科に着任され、以来2011年に定年退職されるまで、多くの学生を育てるとともに、木工の実践的知識を踏まえた歴史・生活文化研究に取り組まれました。実直なフィールドサーベイにもとづく論文「中国雲南省地床式住居の食事空間と食卓」（デザイン学研究149）は、2002年度の年間論文賞を受賞されています。他方、九州クラフトデザイン協会の一員として、地域の工芸振興にも尽力されていました。その真摯な取り組みは先生の職業的活動と両輪を成していました。退職後、同大名誉教授、当学会名誉会員に叙せられた他、2015年には当学会功労賞を授与されています。

退職後の先生は、吉野ヶ里遺跡のほとりに自ら設計した居住空間付きの木工房を建て、福岡市内の自邸との往復生活を楽しまれていました。しかし、年明けからほどなくして思いがけず病魔に襲われ、治療のすべなく帰らぬ人となりました。一見強面、その実、とてもチャーミングな先生とお会いすることは、もはや叶いません。研究発表の質疑応答を含め、学会活動をとおして先生と交流された方々は多数に及ぶことと存じます。学会員を代表し、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

さて、僭越ながら、ここからは家族の一員として、義父・政弘のエピソードをいくつか紹介させてください。

義父は子どもの頃から絵を描くこと、ものを作ることを好

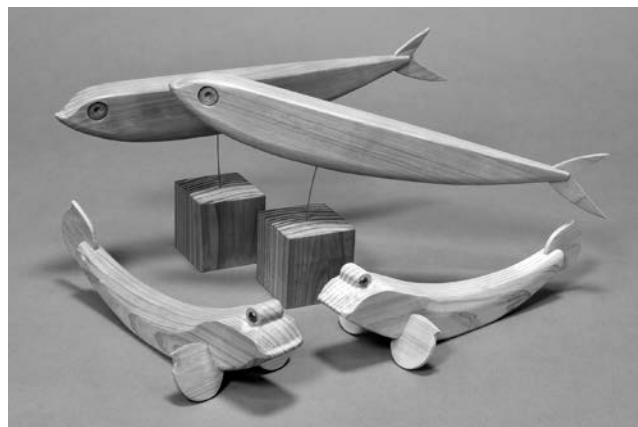
み、その巧みさは早逝した表具師の父親から受け継いだに違いないと、母弟妹に信じられていました。いずれにせよ、幼少時に接した職人の手仕事や道具の不思議が、その後の人生に少なからず影響を与えたことは確かです。

私たち家族の帰省時には毎夜、好物の麦焼酎を片手にいろいろな話を聞かせてくれました。内容の半分はデザインについて、もう半分は敬愛する先達や親しい仲間、世話を焼いた教え子らとの交友についてでした。大学時代に演劇を嗜んだという義父の話しぶりは、独特の抑揚と身ぶりが相まったユニークなもので（おそらく、その姿が思い出される方もいらっしゃるでしょう）、同じ話を何度聞いても飽きることがありませんでした。また、歓談中、義父と、服飾デザインを専門とする同業の義母とが、さまざまなテーマで議論することがよくありました。異分野の専門家が身近にいたことは、義父の見識を高めていたに違いありません。

吉野ヶ里の木工房は製材・加工機が並ぶ本格的なもので、義父の興味関心にもとづき、さまざまな試作が繰り返されていました。満足できるものは展示会に出品され、請われて手放すこともありましたが、慣れない値付けに苦勞し、最終的に実費に近くなってしまうことを、自ら苦笑していました。

孫である三姉妹が大きくなると、それぞれに折り畳み式の小テーブルを作り、プレゼントしてくれました。帰省時には木工作業を実演し、簡単な作業は体験させてくれました。冬には木工房の小さな畑で育てた晩白柚やレモンを東京へ届けてくれました。木工房は義父自身にとってはもちろんのこと、孫たちにとってもユートピアでした。

最後に、有明海のトビウオとムツゴロウをモチーフにした義父の小品を紹介します。義父の戒名には「空」の一字を含めました。きっと今頃は好きなだけ、木工と麦焼酎を楽しんでいるはずです。



追 悼



杉山先生を偲んで

小野健太
八馬 智

2022年10月10日に杉山和雄先生がお亡くなりになりました。

その年4月に体調を崩され、その後、入院する事になられたのですが、体調を崩される直前まで、アドバイザーをされていたオリエンタルコンサルタンツに、コロナ禍にも関わらず、しっかりお勤めされていたとお聞きしております。ご入院中は、コロナ禍のためご家族しか面会ができなかったため、残念ながらお会いすることはできませんでしたが、9月4日の先生のお誕生日に、病室でご家族が開かれた誕生会では、少し照れながらも楽しい時間をお過ごしになられたとお聞きしております。

最後に杉山先生にお会いできたのは、前の年の年末に、八馬が新しく本を上梓し、そのお祝いの会でした。その時も、本の内容について、我々が学生の時と変わらず、本質を突くシャープなご批評を頂きました。その後も、それぞれの研究者としての生き方について、日本のデザイン界の未来について、デザートを食べ終わる最後まで、熱く語られたのも今でもしっかり覚えています。

杉山先生のご功績については、改めてご紹介するまでもなく、また紙面がいくらあっても足りませんので、以下にほんの一部だけ紹介させていただきます。

1942年香川県生まれ。1969年千葉大学大学院工学研究科工業意匠学専攻修了。

Goldsmith Yamasaki, Specht & Anderson Design Inc. (米国)等を経て、1973年より千葉大学工学部工学意匠学科勤務。1994年教授、2006年オリエンタルコンサルタンツ杉山デザイン研究所所長、2007年東西大学(韓国) the Graduate School of Design & IT副研究院長、2011年(平成23年)芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授、工学博士(東京大学)。2002-2003年土木学会デザイン賞選考委員長、2004-2007年日本デザイン学会会長、2005-2011年International Association of Societies of Design Research副会長

主な作品に瀬戸大橋、大島大橋、白鳥大橋、永宗大橋(韓国、国際コンペ第1席)、韓国麗水高興連陸連島橋(韓国、国際コンペ第1席)、ワールドカップ橋(韓国/競争設計第1位)等。

主な著書に「橋の造形学(朝倉書店)」、『Bridge Aesthetics Around the World』(Transportation Research Board、分担)、『美しい橋のデザインマニュアル第2集』(土木学会)、『EXCELによる調査分析入門』(海文堂、編著)等。

杉山先生には、学生として、研究者として、教育者として、社会人として、大人として、本当に多くのことを教えて頂きました。

杉山先生は一流の研究者でした。対象とする研究テーマは幅広く、プロダクト、景観、インタフェース、サービス、システム、マネジメント、デザイン論、杉山先生にとっては、世の中の全てがデザイン研究の対象だったのだと思います。そして学生が提案するどんな研究テーマであっても、テーマに対して真摯に向き合い、その本質を捉えようと学生と一緒に、時には学生よりも真剣に頭を悩ませておられました。先生のテーマに向き合う姿勢を見て、デザイン研究の面白さ、醍醐味に、全員目覚めたのではないかと思います。そして、先生の何に対しても抱く好奇心、そしてピュアに向き合う姿勢は、いまでも教え子に引き継がれ、産業界、学术界、行政、あらゆる場所で、新しい知の発見の原動力としてしっかり生き続けていると思います。

杉山先生は未来に対して明確なビジョンを持たれた橋のデザイナーでした。世界を代表する数多くの橋梁をデザインしてこられたのは、もちろんですが、杉山先生がデザインされた橋は橋梁だけではなく、日本デザイン学会と世界中のデザイン学会とを橋で結ぶ壮大なビジョンを立てられ、そして、実際にご自身で世界中のデザイン学術団体を回られ、地道な交渉を繰り返し、そして日本デザイン学会(JSSD)、The Chinese Institute of Design(CID)、Design Research Society(DRS)、Korean Society for Design Science(KSDS)4団体をメンバーとする、The International Association of Societies of Design Research(IASDR)を2005年に設立され、初代Vice Presidentsを7年間勤められました。

それ以外にも、土木分野とデザイン分野、デザイン産業界と学术界、デザイン学会と皇室など、それらは目には見えない橋ではありますが、いずれも世界的ブリッジデザイナーが明確なビジョンを持ってデザインされた橋ですので、もちろん壊れることなく、壊れるどころかますます強固に、これからも発展するに違いありません。

杉山先生は、決して聖人君子的な教育者ではなく、人間味あふれる豪快な本物の教育者でした。杉山先生から、何か教訓めいたものを教わった記憶はほとんどありませんが、先生はどんな学生にも分け隔てなく、貴重な機会を与えてくれました。わたくしなどは、できの悪い学生でしたが、企業との協業の機会、海外発表の機会、海外研究者との交流の機会、おいしいお酒を飲む機会、本当に多くの機会を与えて頂きました。失敗することたくさんありましたが、それでも先生は何も言うことなく、また与えてくれました。今になって思うのは、知識や知恵を伝えても人は育たず、唯一の方法は機会を与え続けるしかないということをお分かりになられていたように思います。

杉山先生とお会いでき、先生に教えて頂き、先生と一緒に働かせて頂き、本当に楽しかったです。我々はこれからも懲りずに失敗を繰り返すと思います。眉をひそめてでも構いませんので、天国よりお見守りください。

日本デザイン学会2021年度第5回理事会議事録

日時■2022年2月12日（土曜日）10：00～12：00

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、生田目、赤井、アルバレス、池田、井関、井上、大島、柿山、上綱、工藤、國澤、久保、杉下、曾我部、滝本、田村、永盛、蓮見、平松、伏見、益岡、松岡、村上、柳澤、山中、山本、横溝、小野、蘆澤、佐藤（浩）

欠席者■岡本、國本、小山、佐々木、寺内、橋田、山内、柚木、加藤

1. 会長挨拶

小林会長より挨拶がなされた。

2. 2021年度第4回理事会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2021年度第4回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2022年度春季大会について（佐藤（弘）本部事務局長・柿山概要集編集委員長）

佐藤（弘）本部事務局長と柿山概要集編集委員長より、「変化“せられる”デザイン」というテーマ、実行委員メンバー、日程、およびシステム契約（oVice、Confit等）等の案について説明がなされた。審議の結果、テーマ概要の一部修正を除き、提案事項は承認された。また、oViceを用いた仮想ポスター発表の運営方法や参加者データの利用方法について、引き続き議論していくこととなった。

4. 2022年度春季大会テーマセッション&キーノートスピーチについて（小野研究推進委員長）

小野研究推進委員長より、テーマセッション&キーノートスピーチの募集について説明がなされた。18日の締切後、可否についてメール審議を行うこととなった。

5. 2022年度春季大会オーガナイズドセッションについて（生田目総合企画委員長）

生田目総合企画委員長より、オーガナイズドセッションの準備状況について説明がなされた。理事会提案企画に関する議論のなかで、デザイン学研究の今後の枠組みや方向性に関するトピックが示され、テーマ案の1つとして検討することとなった。

6. 2021年度学会各賞選考について（山中担当理事）

山中担当理事より2021年度学会各賞選考結果について説明がなされた。審査の結果、本年度は功労賞2件、年間論文賞1件、年間作品賞2件を授与するとの報告がなされた。また、次年度以降の体制として、選考委員の増員や新規カテゴリの設置などの課題が提示された。

7. 『デザイン学研究』投稿規定の改定について（久保論文審査委員長、佐藤論審委員）

久保論文審査委員長より、『デザイン学研究論文集』の投稿規定改定案が示された。審議の結果、追加した倫理的事項に関して承認された。また、投稿の手続きにおける文言の修正案が提案され、承認された。

8. EBSCOへの収録について（久保論文審査委員長、佐藤論審委員）

佐藤論審委員より、EBSCOデータベース収録について説明がなされた。審議の結果、データの準備に掛かる費用等を考慮し今回の収録は見送ることとなった。

9. フェーズフリーアワード後援依頼について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、フェーズフリーアワード後援依頼について説明がなされた。審議の結果、承認された。

10. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員11名（内海外会員1名）、

学生会員18名（内海外会員8名）

退会：正会員12名（内海外会員1名）、

学生会員1名

名誉会員候補の退会2名分は保留となった。

【報告事項】

11. 2021年度役員選挙について（永盛選挙管理委員長）

永盛選挙管理委員長より、投票率等の概要報告がなされた。

12. デザイン学研究の進捗状況について（久保論審委員長）

久保論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況と68巻4号の準備状況について報告がなされた。

13. 英文ジャーナルの進捗状況について（村上論審委員長）

村上論審委員長より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。

14. 特集号の進捗状況について（寺内学会誌編集・出版委員長（代）小野担当理事）

小野担当理事より、原稿の入稿に遅延が発生しているとの報告がなされた。

15. 作品集の進捗状況について（杉下作品審査委員長）

杉下作品審査委員長より、2月18日まで校閲を完了し、予定通り刊行するとの報告がなされた。

16. ホームページ更新状況について（大島広報委員長）

大島広報委員長より、会員の著書の申請が3件あり、掲載条件を満たす2件を掲載したとの報告がなされた。

17. 第2支部企画について（平松第2支部局長）

平松第2支部局長より、教育成果集の掲載作品の募集について説明がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2021年度第3回運営委員会議事録

日時■2022年3月5日（土曜日）15:00～17:00

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、生田目、アルバレス、池田、井関、井上、大島、柿山、上綱、久保、國本、佐々木、杉下、永盛、蓮見、平松、伏見、松岡、村上、山中、山本、柚木、横溝、小野、蘆澤、加藤、佐藤（浩）

欠席者■赤井、岡本、工藤、國澤、小山、曾我部、滝本、田村、寺内、橋田、益岡、柳澤、山内

1. 会長挨拶

小林会長より挨拶がなされた。

2. 2021年度第5回理事会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2021年度第5回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2022年度春季大会について（佐藤（弘）本部事務局長、柿山概要集編集委員長、井関担当理事）

井関担当理事より、3月1日に公開されたホームページの準備状況について説明がなされた。また、佐藤（弘）本部事務局

長と柿山概要集編集委員長より、締め切り期間の延長やoViceを用いたポスター発表の手順について提案がなされ、承認された。さらに、2つの基調講演案が示され、審議の結果、案1となった。なお、会員交流会へ多くの方々に参加していただくために、スケジュールについて実行委員会で再度検討することとなった。

4. 2022年度春季大会テーマセッション&キーノートスピーチについて（小野研究推進委員長）

小野研究推進委員長より、テーマセッション&キーノートスピーチの募集について説明がなされた。8件のテーマセッションへの応募と3件のキーノートスピーチへの応募があったとの報告がなされた。審議の結果、キーノートスピーチについては実施要件を考慮し、2件分が承認された。

5. 2022年度春季大会オーガナイズドセッションについて（生田目総合企画委員長）

生田目総合企画委員長より、オーガナイズドセッションの準備状況について説明がなされた。8件の応募があったことから、そのうちの4件をオーガナイズドセッションAからDとし、他の4件（部会からの応募分）については2日目17時からパラレルで実施することとなった。

6. デザイン関連学会シンポジウムと秋季企画大会について（松岡担当理事）

松岡担当理事より日程やスケジュール案が示され、承認された。今後は、参加団体との調整と登壇者の選定、学生プロポジションの調整等を行い、実施していくこととなった。

7. 2022年度名誉会員の選考について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、名誉会員の推挙について説明がなされた。候補者の先生方に最終的な意思確認を行うこととなり、次回理事会で最終決定を行うこととなった。なお、次年度以降の審議をスムーズにするために、審議資料を工夫することになった。

8. 会長賞の募集について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、審査日程案が示され、例年通りの募集を行っていくこととなった。

9. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員3名、

学生会員15名（内海外会員6名）

退会：正会員 4 名、
海外学生会員 1 名
休会：正会員 1 名、
学生会員 1 名
が承認された。

【報告事項】

10. デザイン学研究の進捗状況について（久保論審委員長）

久保論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。

11. 英文ジャーナルの進捗状況について（村上論審委員長）

村上論審委員長より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。

12. 特集号の進捗状況について（寺内学会誌編集・出版委員長（代）小野担当理事）

小野担当理事より、原稿の進捗状況の報告がなされた。次号のテーマとして、2021年度秋季企画大会「OpenSIG」の内容を検討しているとの説明がなされた。

13. 作品集の進捗状況について（杉下作品審査委員長）

杉下作品審査委員長より、予定通り刊行するとの報告がなされた。

14. ホームページ更新状況について（大島広報委員長）

大島広報委員長より、会員の著書の申請が 2 件あり、掲載完了との報告がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2022年度第1回理事会議事録

日時■2022年4月9日（土曜日）15：00～16：30

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、生田目、赤井、アルバレス、池田、井関、井上、大島、岡本、柿山、上綱、工藤、國本、久保、佐々木、杉下、滝本、田村、寺内、橋田、蓮見、伏見、松岡、村上、柳澤、山内、山中、柚木、横溝、小野、蘆澤、加藤、佐藤（浩）

欠席者■國澤、小山、曾我部、永盛、平松、益岡、山本

1. 会長挨拶

小林会長より挨拶がなされた。

2. 2021年度第3回運営委員会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2021年度第3回運営委員会議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2022年度理事会構成員・組織について（小林会長）

小林会長より、2022-23年度役員候補について説明がなされた。理事会終了後、組織化を進めるとの報告がなされた。

4. 2022年度春季大会について（佐藤（弘）本部事務局長、柿山概要集編集委員長）

佐藤（弘）本部事務局長、柿山概要集編集委員長より、2022年度春季大会の準備状況について説明がなされた。具体的には、4月5日時点の投稿数と大会プログラムの変更点について報告がなされた。講演募集締め切り後、プログラム編成等、引き続き準備を進めていくこととなった。

5. 2022年度秋季企画大会・デザイン関連学会シンポジウムについて（松岡担当理事、加藤実行委員長）

松岡担当理事、加藤実行委員長より、学生プロポジション、会場案、パネルディスカッションのメンバー案について説明がなされた。また、予算については20～30万を前提とし、非会員への謝金は3万円に設定することとなった。具体的な予算案については、引き続き検討することとなった。

6. 2022年度名誉会員の選考について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、名誉会員の推挙について説明がなされた。審議の結果、5名を名誉会員候補として推薦することとなった。理事会終了後、会長から候補者へ確認の連絡をすることとなった。

7. 2022年度学会運営スケジュールについて（佐藤本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、2022年度学会運営スケジュール案が示された。審議の結果、5月末の理事会を6月上旬に変更することとなった。また、学会各賞の推薦開始連絡を会長・事務局で実施することとなった。さらに、理事会・運営委員会の実施形態について、春季・秋季大会時には対面とし、その他はオンラインで実施することとなった。

8. 2022年度総会議案書について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、2021年度報告と2022年度計画の執筆を各支部、委員会および部会へ依頼するとの報告がなされた。

9. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員20名（内海外会員2名）、
学生会員49名（内海外会員8名）、
年間購読会員1件、
賛助会員1件

退会：正会員15名、
学生会員3名（内海外会員1名）

休会：正会員2名
が承認された。

【報告事項】

10. デザイン学研究の進捗状況について（久保論審委員長）

久保論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。

11. 英文ジャーナルの進捗状況について（村上論審委員長）

村上論審委員長より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。

12. 特集号の進捗状況について（寺内学会誌編集・出版委員長）

寺内学会誌編集・出版委員長より、原稿の進捗状況の報告がなされ、29巻1号の原稿が今月中に入稿されるとの説明がなされた。また、研究部会特集（仮）とファッション・デザイン部会のテーマ案が示された。

13. 作品集の進捗状況について（杉下作品審査委員長）

杉下作品審査委員長より、27号発行が完了し、次年度に向けて準備を進めているとの報告がなされた。

14. ホームページ更新状況について（大島広報委員長）

大島広報委員長より、ホームページのアクセス状況とデザイン科学事典ページの追加について説明がなされた。

15. 芸術学関連学会連合シンポジウム（小林担当理事）

小林担当理事より、第16回公開シンポジウム「芸術と疫病」について、準備状況の報告がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2022年度第2回理事会議事録

日時■2022年6月4日（土曜日）15：00～16：30

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、生田目、赤井、アルバレス、井口、池田、井関、井上、大島、岡本、柿山、加藤（大）、上綱、川島、工藤、國澤、國本、久保、黄、小泉、佐々木、杉下、田村、寺内、永盛、平松、伏見、松岡、村上、柳澤、山中、山本、柚木、小野、蘆澤、加藤（健）、佐藤（浩）

欠席者■小山、曾我部、滝本、橋田、蓮見、益岡、山内、横溝

1. 会長挨拶

小林会長より、今回は2022年理事候補となっている方々にも陪席していただいた等、挨拶がなされた。

2. 2022年度第1回理事会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2022年度第1回理事会議事録案が示され、軽微な修正を除き、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2022-23年度理事会構成員・組織について（小林会長）

小林会長より、2022-23年度役員構成案について説明がなされ、原案を総会で審議することとなった。

4. 2022年度春季大会について（佐藤（弘）本部事務局長、柿山概要集編集委員長）

佐藤（弘）本部事務局長、柿山概要集編集委員長より、2022年度春季大会の準備状況について報告がなされた。具体的には、総会と会員交流会の進行案、GP審査等の今後の予定について説明がなされた。引き続き、準備を進めていくこととなった。

5. 2022年度秋季企画大会・デザイン関連学会シンポジウムについて（加藤実行委員長）

加藤実行委員長より、実行委員会メンバーについて説明がなされた。詳細な開催形式等について、引き続き検討していくこととなった。

6. 会長賞の選考について（小林会長）

小林会長より、会長賞の推挙について説明がなされた。審議

の結果、2名に会長賞授与することとなった。

7. 2021年度決算について（小野本部副事務局長）

小野本部副事務局長より、2021年度決算について説明がなされ、承認された。

8. 2022年度予算について（小野本部副事務局長）

小野本部副事務局長より、2022年度予算について説明がなされ、承認された。

9. 2022年度総会と議案書について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、議案書の準備状況について説明がなされた。議論の結果、2020年度の式次第や進行を踏襲して準備を進めることとなった。

10. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員23名（内海外会員3名）、
学生会員37名（内海外会員11名）、
年間購読会員1件、
賛助会員1件

退会：正会員8名（内海外会員1名）、
学生会員12名

が承認された。

11. 理事会選出副会長選挙について（永盛選挙管理委員長）

永盛選挙管理委員長より、理事会選出副会長選挙の実施方法について報告がなされた。投票用紙の7日発送、20日必着締め切り後に集計するとの説明がなされた。

【報告事項】

12. デザイン学研究の進捗状況について（久保論審委員長）

久保論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。

13. 英文ジャーナルの進捗状況について（村上論審委員長）

村上論審委員長より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。

14. 特集号の進捗状況について（寺内学会誌編集・出版委員長）

寺内学会誌編集・出版委員長より、原稿の進捗状況の報告がなされ、29巻1号の原稿が6月中に発行されとの説明がなされた。また、タイポグラフィ研究部会単独による特集号企画案が示され、2023年の春の発行を目指すとの報告がなされた。

15. 作品集の進捗状況について（杉下作品審査委員長）

杉下作品審査委員長より、次期委員会への引き継ぎの準備を行っているとの報告がなされた。

16. ホームページ更新状況について（大島広報委員長）

大島広報委員長より、ホームページのアクセス状況と会員の著書の追加について説明がなされた。また、委員の交代に伴うログイン情報等の引き継ぎについて滞りなく実施いただくよう、お願いがなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2022年度第3回理事会議事録

日時■2022年6月24日（金曜日）13:00～14:00

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、生田目、赤井、池田、井関、井上、大島、柿山、上綱、工藤、國本、久保、杉下、曾我部、永盛、蓮見、平松、伏見、松岡、村上、柳澤、山中、山本、横溝、小野、蘆澤、加藤（健）、佐藤（浩）

欠席者■アルバレス、岡本、國澤、小山、佐々木、滝本、田村、寺内、益岡、山内、柚木

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 2022年度第2回理事会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2022年度第2回理事会議事録案が示され、軽微な修正を除き、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2022年度春季研究発表大会について（佐藤（弘）本部事務局長、柿山概要集編集委員長）

佐藤（弘）本部事務局長、柿山概要集編集委員長より、2022年度春季大会の発表予定件数や参加者予定数について報告がなされた。

4. 総会の進行について（佐藤本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、総会の進行案について説明がなされ、承認された。

5. 2022年度秋季企画大会について（加藤実行委員長）

加藤実行委員長より、開催形式案について説明がなされた。

具体的には、午前中の学生プロポジションについては対面開催、午後はオンラインを検討しているとの案が示された。参加者人数などをシミュレーションし、詳細を引き続き検討していくこととなった。

6. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員 3 名、

学生会員 9 名（内海外会員 4 名）

退会：正会員 2 名（内海外会員 1 名）

休会：正会員 1 名

が承認された。

【報告事項】

7. デザイン学研究の進捗状況について（久保論審委員長）

久保論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。

8. 英文ジャーナルの進捗状況について（村上論審委員長）

村上論審委員長より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。

9. 作品集の進捗状況について（杉下作品審査委員長）

杉下作品審査委員長より、次期委員会への引き継ぎが完了したとの報告がなされた。

10. ホームページ更新状況について（大島広報委員長）

大島広報委員長より、ホームページのアクセス状況について説明がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2022年度第4回理事会議事録

日時■2022年6月24日（金曜日）18：30～19：30

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、赤井、井口、池田、石川、井関、井上、大島、柿山、加藤（大）、川島、黄、工藤、小泉、佐々木、水津、曾我部、寺内、永盛、西尾、福田、細谷、益岡、村井、村上、森、柳澤、山本、小野、蘆澤、加藤（健）、佐藤（浩）

欠席者■岡本、佐々、永井、橋田、松岡、森田、山中

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 理事会選出副会長の選出について（永盛選挙管理委員長）

永盛選挙管理委員長より、理事会選出副会長選挙が実施され、井口理事が副会長となった。

【審議事項】

3. 2022-23理事会構成・組織について（小林会長）

小林会長より、2022年度理事会構成員・組織について、別紙のとおり説明がなされ承認された。また、各支部、委員会の担当について説明がなされた。さらに、各支部、委員会にて幹事を選定し、事務局へ連絡していただくようお願いがなされた。

加えて、学会各賞の委員について、理事会とは独立した選考委員会とし、選考委員構成は理事会で審議するが、山中委員長以外の委員については、選考後に公表することとしたい、との説明があった。

4. 2022年度学会運営スケジュールについて（佐藤（浩）本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、2022年度学会運営スケジュールについて説明がなされた。

5. 2022年度秋季企画大会について（加藤実行委員長）

加藤実行委員長より、実行委員会メンバーについて説明がなされた。詳細な開催形式等について、引き続き検討していくこととなった。

6. 作品集公募について（細谷作品審査委員長）

細谷作品審査委員長より、作品集の公募内容について説明がなされた。

【報告事項】

7. 藝術学関連学会連合の理事会報告（井口担当理事）

井口担当理事より、藝術学関連学会連合2023年度公開シンポジウムのテーマ案募集について説明がなされた。各理事発案のテーマ案については、次回理事会までに事務局へ連絡していただくようお願いがなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2022年度第1回運営委員会理事会議事録

日時■2022年9月3日（土曜日）15：00～17：00

場所■Web会議

出席者■小林、佐藤（弘）、井口、赤井、石川、井関、井上、大島、加藤（大）、川島、小泉、黄、佐々、佐々木、水津、曾我部、寺内、永盛、橋田、福田、細谷、益岡、松岡、村上、森、森田、山中、山本、小野、蘆澤、加藤（健）、佐藤（浩）

欠席者■岡本、柿山、工藤、永井、西尾、村井

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 2022年度第3回・第4回理事会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2022年度第3回・第4回理事会議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2022年度秋季企画大会について（加藤実行委員長）

加藤実行委員長より、対面とオンラインのハイブリッド形式開催、予算案、スケジュール案などが示され、承認された。また、新型コロナウイルスの感染状況に応じてオンライン化する必要が生じた場合には、メール審議にて確認することとなった。

4. 2022年度学会各賞選考について（山中選考委員長）

山中選考委員長より、前例とは異なる審査体制をとったとの説明がなされた。議論の結果、従来の委員の方々に今年度の選考方法を改めて説明することとなった。また、今後の審査方法に関する議論を進めるためにも、選考委員会を開催することとなった。なお、秋季大会で審査経過を報告することとなった。

5. 2023年度藝術学関連学会連合シンポジウムのテーマ案について（井口担当理事）

井口担当理事より、JSSD提案のテーマ案として「科学と芸術」が示され、承認された。趣旨説明を精査して、手続きを進めることとなった。

6. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、
入会：正会員18名（内外国会員2名）、

学生会員4名（内外国会員1名）

退会：正会員6名、

学生会員2名

休会：正会員1名

が承認された。

【報告事項】

7. 進化思考批判に対する意見書の経緯について（蘆澤理事）

蘆澤理事より、進化思考批判に対する意見書の経緯について報告がなされた。

8. デザイン学研究の進捗状況について（佐藤論審委員長）

佐藤論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。

9. 英文ジャーナルの進捗状況について（柳澤担当理事）

柳澤担当理事より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。

10. 作品集の進捗状況について（細谷作品審査委員長）

細谷作品審査委員長より、申込締切を9月12日まで延長しているとの説明がなされた。

11. ホームページ更新状況について（西尾広報委員長（代）大島理事）

大島理事より、ホームページのアクセス状況について説明がなされた。新体制の支部や委員会に対して情報更新のお願いをさせていただくとの説明がなされた。

12. 機械工業デザイン賞IDEA日本デザイン学会賞について（小林会長）

小林会長より、第52回機械工業デザイン賞における日本デザイン学会賞受賞製品の紹介がなされた。

13. 第二支部見学会実施報告・教育成果集配布実施の報告（橋田第二支部長）

橋田第二支部長より、セミナーの実施結果について説明がなされた。約40名の申し込みがあり好評のうちに終了したとの報告がなされた。また、教育成果集については、秋季大会での配布を検討しているとの説明がなされた。

14. スムージーを利用したメール配信について（事務局）

事務局より、スムージーを利用したメール配信について報告がなされた。具体的には、支部ごとのメール配信が可能になっ

たが、ファイル添付による送付はできないとの説明がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2022年度第5回理事会議事録

日時■2022年10月1日（土曜日）9：00～10：00

場所■Web・対面会議

出席者■小林、佐藤（弘）、井口、赤井、井関、井上、大島、岡本、川島、工藤、小泉、黄、佐々、水津、寺内、福田、細谷、益岡、松岡、柳澤、山中、山本、小野、蘆澤、佐藤（浩）

欠席者■石川、柿山、加藤（大）、佐々木、曾我部、永井、永盛、西尾、橋田、村井、村上、森、森田、加藤（健）

1. 会長挨拶

小林会長より、挨拶がなされた。

2. 2022年度第1回運営委員会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2022年度第1回運営委員会議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2022年度秋季企画大会について（加藤実行委員長（代）蘆澤理事）

蘆澤理事より、学生プロポジションの発表件数や参加登録状況について報告がなされた。予定通り、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催することとなり、スケジュール等の確認がなされた。

4. 2022年度学会各賞選考について（山中選考委員長）

山中選考委員長より、今年度の選考方法について継続審議中であるとの報告がなされた。引き続き、関係委員に説明しながら、選考を進めていくこととなった。

5. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：学生会員3名（内外国会員1名）

退会：正会員2名

休会：正会員1名

が承認された。

住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。

転居される方は、FAXまたは

綴じ込みの「入会届け」に

朱書きで「変更届け」と書き添えて、

事務局までご連絡ください。

ホームページ

http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも

様式が掲載されておりますので

ご利用ください。

退会等の届出も必ず文書にて

お願いします。

本部事務局

【報告事項】

6. デザイン学研究の進捗状況について（佐藤論審委員長）

佐藤論審委員長より、『デザイン学研究』における審査状況について報告がなされた。また、69巻2号が発行されたとの説明がなされた。

7. 英文ジャーナルの進捗状況について（柳澤担当理事）

柳澤担当理事より、『Journal of the Science of Design』における審査状況について報告がなされた。

8. 特集号の進捗状況について（蘆澤学会誌編集・出版委員長）

蘆澤学会誌編集・出版委員長より、特集号の進捗状況について説明がなされた。

9. 作品集の進捗状況について（細谷作品審査委員長）

細谷作品審査委員長より、36件の応募があったと説明がなされた。また、機関リポジトリへの作品集の掲載について議論がなされ、引き続き審議していくこととなった。

10. ホームページ更新状況について（西尾広報委員長（代）大島理事）

大島理事より、ホームページのアクセス状況について説明がなされた。また、会員の著書についても3件の紹介がなされた。

11. 会報への記事執筆のお願い（森会報担当理事（代）佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、会報の執筆についてお願いがなされた。

記録：佐藤（浩）

2022年度春季研究発表大会報告

実行委員長 佐藤弘喜

第69回日本デザイン学会春季研究発表大会は、2022年6月24日～26日（日）の3日間で行われた。コロナ感染状況を考慮し、初めての試みとして開催校を設定せず、学会本部主催でのリモート開催として実施した。大会テーマを「変化“せられる”デザイン」とし、新型コロナウイルス感染や相次ぐ災害により暮らしや行動の変化が求められる状況において、デザインのあり方や研究のアプローチはどのように変化しているのかを考える大会となった。なお、リモート開催となったため前年に引き続き参加費を無料とした。

例年同様、初日は総会に引き続き基調講演を設け、2日目から研究発表を実施した。口頭発表セッション18、テーマセッ

ション7、ポスターセッション2、オーガナイズドセッション8（公募による企画4、部会の提案による企画4）が行われた。結果として口頭発表177件、ポスター発表：61件、参加登録者数789名となり、対面での研究発表大会と遜色ない参加数であった。

新たな試みとして、ポスター発表に「oVice」のシステムを導入し、オンライン上の仮想ポスター会場で指定の場所にいる発表者が質疑応答をする形としたが、大きなトラブルもなく実施することができた。また、対面開催の場合に実施してきた懇親会はリモートでの会員交流会とし、学会各賞受賞者の紹介や会長賞の発表、上記の「oVice」システムの体験会などとして実施した。

開催校を設定せず、学会本部として直接大会運営にあたる形は初めてであり、また「oVice」による仮想空間でのポスター発表の導入など、学会として新たな試みを導入しながらも、新型コロナウイルスの感染の厳しい状況において、例年通りの春季研究発表大会を無事に終了することができた。フルリモートによる運営に関しては検討課題も見られたが、学会として大会運営のあり方を考える良い機会になったとも言え、今後の大会運営に活かしていくことを期待したい。大会実行委員として運営に携わっていただいた理事の方々、リモート発表の各会場の対応をいただいた座長の皆さんや学生スタッフの皆さんのご協力に感謝したい。

2022年度名誉会員の選考について

本部事務局長 佐藤弘喜

2022年度の名誉会員として下記の5名の方々が選出され、第69回春季研究発表大会における総会にて名誉会員証が贈呈されました。

116号 國澤好衛氏

117号 五十嵐浩也氏

118号 尾登誠一氏

119号 伊豆裕一氏

120号 高野修治氏

2022年度秋季大会およびデザイン関連学会シンポジウムについて

2022年度日本デザイン学会秋季企画大会は、2022年10月1日（土）に、慶應義塾大学（三田キャンパス東館G-sec-lab）／Zoomのハイブリッドを会場とし、デザイン関連学会シンポジウムと共催で開催され、約276名の参加がありました。大会テーマは「デザインの哲学～日本の豊かさを再考する」です。

特別講演では「デザイン関連学会シンポジウム、各学会長が語るこれまでとこれから」というテーマで、松岡由幸氏（慶應

義塾大学／早稲田大学）の司会のもと、小林昭世氏（日本デザイン学会&基礎デザイン学会）、藤田治彦氏（意匠学会）、大井尚行氏（芸術工学会）、藤本清春氏（道具学会）による講演がなされました。その結果、学会間連携に有用な情報交換が行われるとともに、今後もこのシンポジウムを継続・発展させ、毎年、哲学を主なテーマとして実施していく旨が確認されました。

パネルディスカッションでは「日本の豊かさとデザインを再考する」というテーマで、松岡由幸氏（慶應義塾大学／早稲田大学）の司会のもと、以下の6つの講演とディスカッションが行われました。①原川宙氏（経済産業省商務・デザイン政策室長補佐）「デザイン政策における「デザイン」の変遷：～デザインは我が国の豊かさにどう貢献できるか～」、②津村真紀子氏（日本デザイン振興会）「グッドデザイン賞で見る『豊かさ』の変遷」、③石川義宗氏（道具学会、長野大）「『道具』という考え方の浮上：デザイナーたちは何と向き合っていたのか」④井上貢一氏（芸術工学会、九州産業大）「言葉が育むデザイン」、⑤水内智英氏（基礎デザイン学会、名古屋芸大）「協働デザインプロセスにみる豊かさ」、⑥谷本尚子氏（意匠学会、京都精華大）「バタフライスツールからHIROSHIMAへーグローバル化と木製椅子のデザイナー」。講演の内容は、広範な視座にもとづく国策としてのデザイン政策、グッドデザイン賞史から来年実施される「世界デザイン会議までに目を向けることで考察された日本デザインの「これまでとこれから」。また、「道具」という考え方や言葉とデザインの深淵な関係が生み出している日本デザインの特徴。さらには、木製椅子の事例から考察された日本モノづくりなど、実に多彩であり、様々なアспектによる日本の豊かさを示唆するものでした。

学生プロポジションでは、対面形式で24名の学生がスライド・ポスター・作品を用いて発表を行い、活発な質疑応答や意見交換が行われ、厳選なる審査の結果、7件に優秀賞が授与されました。大会委員長：松岡由幸、大会実行委員長：加藤健郎、実行委員：蘆澤雄亮、石川義宗、小野健太、柿山浩一郎、工藤芳彰、佐々牧雄、井関大介、小林昭世、佐藤弘喜、佐藤浩一郎

【参考：2021年度】

2021年度の日本デザイン学会秋季大会は、11月6日（土）13：00～17：10、オンライン（Zoom）ならではの利点を活かし、オープンキャンパスさながらの「Open SIG（Special Interest Group＝研究部会）」を開催し、多くの方々と「研究の秋」を楽しむことができました。「Open SIG.」は2部構成で開催され、以下の9つの研究部会が参画しました。第一部（環境デザイン部会（ED）・タイポグラフィ部会・子どものためのデザイン部会・農業デザイン部会・アジアデザイン研究部

会）、第2部（情報デザイン研究部会（Info-D）・創造性研究部会・タイムアクシスデザイン研究部会・プロモーションデザイン研究部会）各研究部会には1つのブレイクアウトルームが割り当てられ、自由な企画で研究部会活動を行っていただきました。参加者にはブレイクアウトルームを自由に行き来し、研究部会の活動内容や雰囲気を感じていただきました。秋季大会検討&運営委員会：企画委員会総合企画（生田目・工藤）・研究推進委員会（小野・蘆澤・柿山）・副会長&事務局長（佐藤弘喜）

2022年度第2支部活動報告

支部長 橋田規子

第2支部の本年度活動の報告です。見学会を2回開催しました。

①ミラノサローネ報告会

2022年8月30日18時半～20時半

【参加方法】オンライン（Zoom）

環境部会と共同開催とし、47名の参加者が聴講しました。

②「How is life? 地球と生きるためのデザイン」展

2022年12月5日15時～17時

【参加方法】対面（館長による説明ツアー方式）

見学場所 六本木TOTOギャラリー間

合計で28人が参加しました。

企画部会

教育成果集2022の参加者を募り、合計40名が集まりました。

現在、投稿中で発刊は来年6月となります。

6月のデザイン学会大会で配布します。

2022年度第3支部活動報告

支部長 黄ロビン

第3支部では今年度も支部に所属する会員の皆さん研究成果の交流を促進し、地域へのデザイン啓蒙を図るための様々な事業を行っています。

1. 【第3支部研究発表会】

目的：研究発表を通し会員や学生の交流を深める。

発表内容：デザインに関係したあらゆるテーマを発表対象とした。発表者自身が行ってきたデザイン研究、今後のデザイン研究の方向性・発展性などについて、自由な発想で発表していただいた。

開催日時：令和5年2月18日（土）11時～16時45分

内 容：口頭発表、ポスター発表、表彰
会 場：愛知県立芸術大学・新デザイン棟
参 加 者：55名
発 表：30件（口頭18件、ポスター12件）
概 要：コロナ禍以降、3年ぶり完全対面形式での開催。
会長小林先生も参加してくれた。大人数の密集を
避ける為、今回は学生発表のみで実施。受付の検
温・消毒を徹底や、発表会場を常に開窓して換
気、カイロの配布など、万全な対策を取り組んで
行った。マスクの常時着用はもちろん、昼食は室
外で分散して黙食、優秀発表賞の表彰のみで懇親
会はなし。

優秀発表賞受賞者：

- 黒田和花（名古屋市立大学）
「ユーザーが介入できる余白を残した製品と
ユーザー満足度の関係調査」
- 原 蒼（金城学院大学）
「アップサイクル事業のモデルケース」
- 川崎怜央（福井工業大学）
「440mm Designer」

運営組織：委員長：黄ロビン（第3支部長、名古屋学芸大学）
副委員長：川島洋一（同副支部長、福井工業大学）
運営委員長：影山友章（名古屋市立大学）
運営委員：廣瀬伸行（愛知産業大学）、弓立順子
（金城学院大学）、楊寧（相山女学園大学）、村井陽平（福井工業大学）、西尾
浩一（名古屋学芸大学）、加藤大香士
（名古屋市立大学）（順不同）

2. 【第3支部報告集】

支部会員の日頃の研究活動・デザイン活動の発表の場とし
て、平成30年度より「第3支部報告集」を出版している。

今年度の報告集には、中部大学工学研究科鈴木研究室の楊佳
錫氏、石川県工業試験場の餘久保優子氏、福井工業大学の近藤
晶氏の投稿があった。報告集は第3支部研究発表会概要集と合
本で、電子出版をした。

3. 日本デザイン学会奨励賞第3支部

学生の表彰制度につきまして、第3支部所属各教育機関にお
いて優秀な研究・制作活動を行った学生・大学院生を対象とし
た「奨励賞」を平成25年度からスタートした。学部・大学院
各2名枠での会員推薦する形式によって、今年は数多くの学生
が表彰された。

■金城学院大学：原 蒼（アップサイクル事業のモデルケー

ス～自動車の内装廃材を利用した商品開発～）

- 名古屋学芸大学：小澤護正（エモーストコネクスト）、日比
野太郎（EMIEL）
- 相山女学園大学：加藤舞（marble—廃プラスチックを使用
した店舗什器の提案）、山田玲愛（kaleido light—部屋を
彩る投影式万華鏡）
- 福井工業大学：面谷琢史（小説「1984年」をモチーフにし
たタイポグラフィ・グラフィック制作）、米田佳史（Rakubo
限られた生活空間を活かした創作家具）
- 名古屋市立大学：清島樹（“収穫体験のメンタルモデル”
を用いた木育什器の開発・検証）
- 名古屋工業大学：大橋毅志（芽吹く町薬場）、村上諒叡
（伝統工芸から広がる居所—まちで見守るフリースクール—）
（順不同）

4. 第3支部ウェブサイトの運営

第3支部その他の活動について、詳しい情報は「<http://jssd3b.jp/>」ご参照ください。

2022年度第5支部活動報告

支部長 井上貢一

第5支部では「2022年度第5支部発表会」を、2022年10月
29日（土）、オンラインで開催した。本発表会は、研究発表と
ライトニングトークの2つのカテゴリを設けているが、オンラ
インペースでの3回目となる今回は、研究発表49件、ライト
ニングトーク14件、合計63件と、昨年よりも大幅に発表件数
の増加があった。またエントリーの状況にも変化があり、第5
支部の会員や学生に加えて、北海道、関東、関西、中国地区か
らの参加があるなど、オンライン開催の継続・浸透が支部エリ
アの境界を消失させた感がある。

今年度の発表会も、幹事大学を設置せず、支部の役員が実行
委員会を編成して企画・準備・運営を行った。また、従来から
の取り組みを継承し、Wikiを用いた発表概要のWeb公開、発
表者に対する発表証明書の発行、またライトニングトークにお
けるベストトーク賞の選定も行った（下記掲載）。ライトニン
グトークにおける高校生発表枠の設定も含め、第5支部の特徴
的な取り組みとして、次年度の発表会でも同様に継続したい。

なお、過去4年間の発表概要は、すべてインターネット上に
下記のアドレスで公開されているので、関係の皆様の研究・教
育の参考としていただければ幸いである。

記

第5支部発表会 2022年度ベストトーク賞（敬称略）

- ウー・ヤーファン（九州大学大学院 芸術工学府）
乳幼児のための口腔診療台のデザイン研究
- 黒木勇哉（大分県立芸術文化短期大学 専攻科造形専攻）
小説の新しい表現「モーションノベル」の提案
- 溝田唯花（兵庫県立長田高校 人文数理探究類型）
神戸市長田区御蔵5・6丁目における復興まちづくりの流れと結果に関する研究
- 大山楠奈（大分県立芸術文化短期大学 専攻科造形専攻）
中学校生活を充実させる生活ノートデザインの研究

第5支部発表会アーカイブ

<https://design.kyusan-u.ac.jp/jssd5th2022/>



2022年度活動報告家具・木工部会

主査 新井竜治

（1）春季研究発表大会

「家具・木工」枠で3件の発表があった。

■新井竜治

「全国藤製品新作品評展示会の特質・意義・問題」

■谷本尚子

「京都市の大正期から昭和初期における西洋家具業界の成立」

■益岡了・山村楽

「CLOSS」

（2）秋季企画大会

家具・木工部会の会員である石川義宗・谷本尚子・両氏による下記の講演があった。

■石川義宗

「『道具』という考え方の浮上：デザイナーたちは何と向き合っていたのか」

■谷本尚子

「バタフライスツールからHIROSHIMAへーグローバルゼーションと木製椅子のデザインー」

（3）臨時総会

期間・方法：10月10日～10月24日：メール審議

議案：2023年度・家具・木工部会・人事（案）

（新）主査：石川義宗（長野大学）

（再任）幹事：滝本成人（椋山女学園大学）

（新）幹事：谷本尚子（京都精華大学）

結果：提案のとおり可決

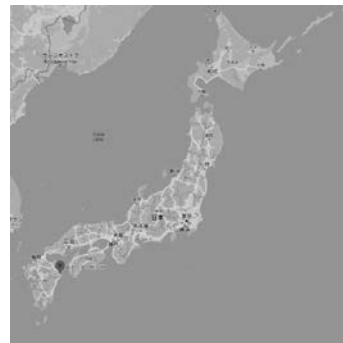
2022年度活動報告環境デザイン部会

主査 佐々木美貴

環境デザイン部会（以後ED部会）の2022年度年間テーマは「サステナブル環境デザイン～SDGs」です。2011年度以降続いた「震災後の環境デザイン」などを経て、2016年度「これからの仕組みー持続可能な環境デザイン」などからの近年の流れを継続しつつ、世界全体で取り組んでいるSDGsへのED部会員の研究等を共有し、発信するとしています。

そこで、年間テーマに従い、国内での活動事例として、持続可能な地域の内発的発展を目指し、古民家「遊志庵」を拠点に様々なイベントや講座、調査などの活動を行っている「あまべ

文化研究所」（代表：岩佐礼子氏、大分県佐伯市 写真① 写真②）の見学会を行いました。見学会は、続く新型コロナウイルス感染症の社会状況のなか、事前現地見学＋遠隔リモート・ヒアリングで開催しました。



写真①



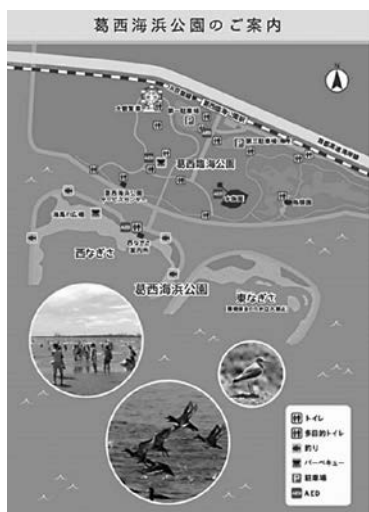
写真②

事前現地見学は、11月27日（日）に、見学担当の部会員が事前に現地へ訪れてご案内などを受けました。遠隔リモート・ヒアリングは、12月4日（日）に、各地から部会員が遠隔で参加してご説明などを受け、質疑応答などしました。それらまとめの報告はEDplace96号に掲載予定です。ご興味のある方はED部会にお尋ねください。

また、近日中に発行となる予定の2022 vol.29-2 106「研究部会のいま」デザイン学研究 特集号では、13人の部会員の執筆でED部会が、2021年度秋季企画大会で公開オンライン部会、タイトル「環境デザイン（小）会議～マッピングを通して見えてきた環境デザイン部会の世界～」での、アンケート、オンライン会議内容を始めに記載するとともに、さまざまな領域の中で活動する部会員から「環境デザイン部会員が専門とする環境デザインの世界」を併せて紹介しています。また、その後の2022年度春季研究発表大会オーガナイズドセッションでオンライン開催した、「変化“せられる”デザイン～環境デザイン編～」の内容の要約と意見交換・質疑応答を続いて掲載しています。お手元に届きましたら、ぜひご覧ください。

日本デザイン学会第70回春季大会2023年6月25日（日）15時～17時のオーガナイズドセッションでは「みんなで東京湾葛西沖を学び・考える」をED部会提案の企画で行う予定です。ぜひ皆様、OSにご参加ください。（関連するエキスカージョンも予定されています。）セッションでは、会場からも広く意見を募集します。さまざまな立場の方とのディスカッションを目指します。（写真③地図 写真④葛西海浜公園）

JSSDの皆様にはED部会の考えていることの大きな方向性をご理解いただき、興味をお持ちいただいたのであれば、ぜひ、共に環境デザインを考え、創造する仲間となっていただくことを願っています。ご連絡をお待ちしています。



写真③



写真④

2022年度活動報告ファッションデザイン部会

主査 神野由紀

2022年度ファッションデザイン部会は特集号刊行の準備のため、ファッション・メディアに関するアンケート調査を行い、その結果報告及び検討会を9月10日に実施した。（於：杉野服飾大学）

また研究例会は、前年度に引き続きオンラインで開催した。

テーマ：英国アール・デコの服飾デザインにみる合理性と芸術性：マジャール・イメージの創出とウォルター・クレイン

発表者：後藤礼圭（津田塾大学言語文化研究所特任研究員）

発表方法：Zoomによるオンライン開催（3月11日）

要旨：1910年代から20年代にかけて、英国で生み出された袖のデザインを中心とした「マジャール」スタイルは、現在のファッション辞典が定義するものとは異なっている。その平面裁断的な構造から、英国はマジャールの騎馬民族服にルーツを持つ、牧人男性の外套スチュールから着想した「マジャール」スタイルを創出したと推察する。では、何故英国におけるマジャール・イメージは牧人男性の民族服をインスピレーション源とし、アール・デコの服飾デザインに採用され消費されたのか。

本研究では、これらを繙く鍵として、英国とハンガリーの芸術文化を結ぶ人物である、ウォルター・クレインの活動を中心にみていく。クレインは、1900年にハンガリーで開催された自身の大規模回顧展のためにハンガリーを訪れた際、民族服を含むスケッチを残している。また、19世紀末から20世紀初頭にかけて英国では、合理的かつ美的な服飾デザインの発展に芸術家らが寄与するという潮流がみられ、クレインも1890年に

創設された衣服改革団体the Healthy and Artistic Dress Unionに関わっていた。このように19世紀末頃から衣服改革運動が起こっていたが、アール・デコの消費文化が欲したのもまた合理性と芸術性という要素であった。

参加者全員による活発な質疑応答の後、研究例会を終えた。

2022年度活動報告タイポグラフィ部会

主査 伊原久裕

タイポグラフィ部会では、2022年度は、タイポグラフィに関する研究領域の充実を図ることを目的とした活動を行った。そのひとつとして、学会春季大会においてタイポグラフィ部会としてテーマセッションを企画した。セッションのテーマを「タイポグラフィへの視点／タイポグラフィからの視点」とし、従来の専門領域に限らない多様な領域からの新鮮な視点によるタイポグラフィ研究の発表を求めた。もうひとつの活動として、部会の目標のひとつとしていたデザイン学会特集号の企画がある。特集号のテーマと執筆者について、幹事を中心に検討を行い、テーマを「タイポグラフィにおける書体—その研究・デザイン・使用の現在」とした。また部会員を中心に執筆者を募り13名の執筆者（予定）が決まり、準備を行っている。2022年度は、2名の新会員を迎え、会員数は18名となった。

2022年度活動報告教育部会

主査 金子武志

年間2～3回の研究会を開催してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため丸3年間研究会は休止状態でした。オンライン開催も検討しましたが、PCのオンライン操作に不慣れな方も多数おられるということから、リアル開催に拘りその可能性を待ち続けました。幸い3年前の企画『蒐集についての一考察 ～モノとの縁、ヒトとの縁～』を発表者の中川英之氏（gallery坂 オーナー）に打診したところ、即快諾いただき、久しぶりの開催に至りました。中川氏には実際のコレクションなどを持参いただき、面前で直接鑑賞いただく場面もあり、充実した時間を持つことができました。オンラインでは感得できない、モノから発せられる情報に参加者も興味津々。後半では活発に質疑応答が行われ、それぞれの経験談を共有することができました。以下研究会の概要です。

<活動概要>デザイン教育研究会の企画

日 時：2023年2月25日（土）14：00～16：30

会 場：日本デザイン福祉専門学校 学生ホール（東京都渋谷区千駄ヶ谷5-7-3、1階）

発 表 者：中川英之（gallery坂 オーナー）

テ ー マ：『蒐集についての一考察 ～モノとの縁、ヒトとの縁～』

参 加 者：25名

発表概要：

なぜ、人は蒐集するのか。蒐集癖などとも揶揄され、蒐集に興味がない人には、まるで理解できない不可思議な行為。蒐集する対象物は、それこそ多種無限に及ぶ。モノがもつ魅力、その魅力の捉え方も人それぞれだが、モノを蒐めるということは、謂わば、それ自体が一つのデザインであり、一つの創作だとも思う。

様々な素材を扱う表現者、手仕事の人々と出会う生業を私はしているが、モノを蒐めることは、そのモノを生み出したヒトに興味をもつことでもある。なぜその素材を扱うことになったのか、その作風に至る道程はどのようなものなのか、いま挑みたい表現は何か、敢えて異素材への探求心はないか、など興味は尽きない。

そのモノが古物の場合には、そのモノの歴史や民俗など、その背景へ興味に至る。どんな時代に、何処で、どのような者がこさえたのか、どのように伝世してきたのか、否、できれば伝世などせず、蔵から出てきて真っ先に目垢のつかないそれを手にしたい、そんな風に、そのモノを巡る夢想妄想は果てなく繰り広げられる。

そんなモノたちが帯同してくれる世界は、人生に深みを与え、より豊かにしてくれる。

そんなモノ蒐めについて思い巡らす様々や、そこから派生する取り留めもない話に、今回は少々お付き合い頂きたい。（研究会案内より抜粋）

発表者紹介：中川英之（gallery坂 オーナー）

日本大学文学研究科史学専攻修士課程修了 日本中世史を鈴木國弘氏に、日本民俗学を平野榮次氏に師事、村落や島嶼への民俗調査や、武蔵村山市史編纂専門調査員としての現地踏査研究から、郷土資料や古道、民間信仰遺物の価値・多様性への探究を深める。

明光義塾狭山ヶ丘教室長を6年間務めた後、2005年東京神楽坂にgallery坂開廊。

工芸、平面、造形など多岐に亘る作家展を開催する展示スペースと、30人余の魅力溢れる作家作品を展覧する常設スペースを併設し、素材・ジャンルを問わず様々な輝きを放つ作家たちと、その挑戦する表現や手仕事の形姿を紹介し続けている。

07～19年神楽坂まち飛びフェスタ参画、09～12年カグラザカヨコロジー参画、11年木旋美術倶楽部第1回展示会講評、18年十人十色神楽坂ガラス散歩参画、18年日本デザイ

ン福祉専門学校クラフトデザイン学科特別セミナー講師

訂 正

すでに発行されている229号の4ページ目に「日本デザイン学会2021年度第3回運営委員会議事録」とありますが、正しくは「日本デザイン学会2021年度第3回理事会議事録」の誤りです。

訃 報

- ・名誉会員の森崇先生が2022年3月21日に、ご逝去されました。ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- ・名誉会員の車政弘先生が2023年2月12日に、ご逝去されました。ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- ・名誉会員の杉山先生が2022年10月10日に、ご逝去されました。ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

献本御礼

◆献本

- 「ポスト資本主義のデザイン」野口尚孝著 発行：皓星社、2022年11月
- 「JAGDA国際学生ポスターアワード2022図録」発行：公益社団法人日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）、2022年11月
- 「プロダクトデザイン [改訂版] 商品開発のための必須知識 105」公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会編集 発行：株式会社ピー・エヌ・エヌ、2021年4月
- 「フェイズフリー・アワード2022報告書」発行：一般社団法人フェイズフリー協会、2022年12月

◆機関誌ほか

- 「日本オフィス学会誌 vol.14.No.1」発行：日本オフィス学会、2022年4月
- 「日本オフィス学会誌 vol.14.No.2」発行：日本オフィス学会、2022年10月
- 「デザイン理論 意匠学会編 80号」発行：意匠学会、2023年1月
- 「GK Report No.41」発行：GKデザイングループ、2022年6月

「GK Report No.42」発行：GKデザイングループ、2022年11月

「JAGDA Report 198号 ここまでデザイン 視覚化されたものの背後でグラフィックデザイナーは何をしているのか」発行：公益社団法人日本グラフィックデザイン協会、2022年8月

「DNP文化振興財団 学術研究助成紀要 Vol.4」発行：公益財団法人DNP文化振興財団、2022年12月

◆催事情報

- 「東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密」2023/3/17～5/14 東京国立近代美術館
- 「ポケモン×工芸展 美とわざの大発見」2023/3/21～6/11 国立工芸館
- 「The Flavour of Power 食と倫理リサーチ展覧会」2023/3/11～6/25 山口情報芸術センター [YCAM]
- 「生誕120年棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ」2023/3/18～5/21 富山県美術館
- 「六本木デザイナーズフラッグ・コンテスト2022入選作品展」2023/3/25～掲載開始 六本木の街を照らす130本の街路灯にフラッグが掲載中 主催：六本木商店街振興組合

◆募集

- PHASE FREE AWARD 2023 第3回フェーズフリーアワード 開催／事業部門及びアイデア部門募集／応募締め切り 2023/5/19/ 主催：PHASE FREE AWARD 2023事務局
- DNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成 2023年度募集／応募締め切り 2023/6/16 主催：公益財団法人DNP文化振興財団
- 第56回造本装幀コンクール作品募集／応募締め切り 2023/4/30 主催：日本書籍出版協会、日本印刷産業連合会

会員の移動

◆第5回理事会 2022.02.12

新入会

正会員11名（内、海外会員1名）

今淵 純子	齊藤 豪	関 透真	武田 亜紀
中川 晃	中島 健太	林 武文	早瀬 交宣
柳原 丈二	若嶺 七緒	CHOU WEN HUEI	

学生会員18名（内、海外会員8名）

荒石 磨季	上田 哲也	岡田 未奈	春日 智哉
林 淳可	前田 瑠	三澤 証文	三宅 駿平

村田 真美 山中 将司 林 恆毅 顧 杰
 齊 倩 施 慧 施 双勝 路 梦瑶
 タンティーン ヴ 陳 嵐清

◆第3回運営委員会 2022.03.05

新入会

正会員3名

岡田絵梨奈 古江奈々美 宮下 十有

学生会員15名（内、海外会員6名）

秋山 裕俊 大野 香織 金子 千聖 久米 聖伍
 篠崎 宏樹 竹内 智一 武田 翔 星野 純平
 山村 将士 李 光宗 李 卓 程 銘
 陳 傑 俞 建琳 楊 柳

◆第1回理事会 2022.04.09

新入会

正会員20名（内、海外会員2名）

池田 泰教 上芝 智裕 大庭 広明 小原 大樹
 鎌田 奈緒 上笹貫鷹暁 木下 菜穂 黒部 瑤乃
 田中 栄治 徳田 彩 鳥居 隆司 中村 敏
 服部 貴哉 藤木 淳 榊屋根ひかる
 宮後 優子 柳瀬 浩之 若松 清輝 トウ サンサン

Paskevicius Algirdas

学生会員49名（内、海外会員8名）

阿部 賀史 五十嵐大智 石崎 航琉 稲垣俊太郎
 岩井 大志 上原 健太 Uchida Aki
 太田 圭 大谷 真菜 大坪 勇翔 大橋 毅志
 葛西 朱里 亀薦 邦彦 北尾 宙輝 木谷 衣利
 木村 颯汰 久保田知靖 黒沢征佑喜 佐田 美渚
 杉山 弥優 高木 祐輝 永井 里奈 長坂 航太
 中原 采音 中村 朝輝 中村 沙絵 中山真太郎
 長谷川千晴 針ヶ谷優里 日向野秋穂 平塚 翔太
 藤田うらら 藤田 成羅 宮田 康平 村上 恭理
 村上 諒叡 山城 清香 吉田 梨桜 吉田 亮太
 吉原 千智 脇 匡史 Lin Chung-Yi
 韓 晟平 呉 妍琲 呉 敏
 ハンセン マックス 劉 慧敏 鄭 富仁
 孟 憲翔

退会

正会員15名

青木優里香 赤瀬 達三 片岡 夏海 片山勢津子

川崎 和男 後藤 雅宣 澁谷 俊彦 首藤登志夫
 仙田 真郷 内藤 正志 森田 守 八浪 美穂
 山下 活博 山本 美希 吉田美穂子

学生会員3名（内、海外会員1名）

杉本 実夏 吉松 孝 陳 思諭

◆第2回理事会 2022.06.04

新入会

正会員22名（内、海外会員2名）

浅井 康 遠田 敦 小澤 拓弥 坂倉 杏介
 佐々木千穂 貞石 貴子 志水 良 下村 泰史
 田邊 雄一 平山 晴香 福浦 友香 古庄 裕
 細川 喜孝 堀 晴菜 堀岡 勝 松井 実
 満島 弘 宮元 三恵 本橋 弥生 山下 航
 賀 佳 Arana Claudia

学生会員38名（内、海外会員13名）

伊藤 健 大久保慶彦 蒲 朋恵 川島 芽衣
 川村 冴 木下 空 桐山 玲奈 栗尾 倭
 剣持 和貴 後藤 直子 佐々木 舞 佐藤 海斗
 篠崎 巧真 柴崎 真里 内藤 大喜 永利里沙子
 西尾 伊織 野田 久智 本多 詩聞 松崎 佑亮
 山形 春陽 山邊 航太 山辺 真幸 山本 聡太
 渡辺真由子 李 聖穎 王 沢宇 王 雪米
 王 粲 沈 清揚 蘇 楚旋 郝 迪
 陳 樹全 裘 夢雲 蔡 豐盛 李 厚鍾
 Bisevac Andjela QI Tong

賛助会員1件

(株) JVCケンウッド・デザイン

退会

正会員7名（内、外国人1名）

坂本 舞 鈴木 誠 夏坂 光男 林 孝一
 望月 琴未 和田 功 呉 英順

学生会員12名

石黒 大洋 伊藤 誉 岩崎 翔太 遠藤 和磨
 王城 向葵 北川 寛明 小平 明 小松 裕奈
 近藤 宏樹 鈴木 葵 壽山 滯奈 南雲 まき

計報

柏原 寛会員（第4支部）

ご冥福をお祈り申し上げます。

◆第3回理事会 2022.06.24

新入会

正会員3名

今村明日香 高柳 英明 由井 真波

学生会員9名（内、海外会員4名）

井原鉄吾朗 鎌田 尚希 小柴 咲耶 小牧 瞳
鷲谷 佳宣 劉 元 葉 添 郭 家瑞
蕭 韋婷

休会1名

筒井 亜湖

退会

正会員2名（内、海外会員1名）

久米川武丈 洪 嘉永

◆第1回運営委員会 2022.09.03

新入会

正会員18名（内、海外会員1名）

浅井 由剛 岩城 覚久 江本 晃美 岡 堅太
川村 朱乃 久保田陽子 繁里 光宏 須長 正治
田中 宏明 谷田 良子 中西 宣人 中野 豪雄
福丸 諒 廻 はるよ 山口 崇司 渡部 武夫
索 米亜 陳 偵瑀

学生会員4名（内、海外会員2名）

エド・はるみ 亀ヶ谷友佑 萩原 大棋
史 瑞民

退会

正会員5名

井上 尚夫 大久保敏之 後藤 吉郎 坂本 禎智
平井 由香

学生会員2名

天野 信子 中島 彩依

◆第6回理事会 2022.12.10

新入会

正会員11名（内、海外会員2名）

高木 皓平 高瀬 維宣 中島 修 土橋 臣吾

古市 晴佳 堀 さやか 本多 明生 益子 宗
湯澤 幸子 鄭 炫采 ジョ チョウ

学生会員14名（内、海外会員7名）

岩下 智春 長田 滯来 清島 樹 後藤 礼圭
三好 春陽 吉田 拓夢 吉田 桃子 楊 榛
焦 文静 王 澤 張 晏瑜 陳 奇岳
高 玥瑤 白 榮逸

休会1名

濱本 隆

退会

正会員13名

池上 薫 出雲たけこ 内田広由紀 大久保 享
高尾 純宏 塚原 肇 富田 直秀 萩原 祐志
森 望 柳田 宏治 山本 裕子 米澤 富哉
渡邊 光章

訃報

太田 文明会員（第2支部）

ご冥福をお祈り申し上げます。

◆第2回運営委員会 2023.02.04

新入会

正会員6名（内、海外会員2名）

安藤 拓生 末田 浩二 武部 竜一 徳永 竜也
王 伯勳 黄 詩珮

学生会員9名（内、海外会員3名）

猪田 大介 梅津 大暉 高橋佳代子 樋口 千尋
向井万里子 吉田 桃子 沈 晏如 馬 振宇
范 雅榮

退会

正会員8名

青山 英樹 上田 篤嗣 梅本 良作 川島 良雄
木村 健一 千代田憲子 武笠 知幸 森本 祥一

◆第7回理事会 2023.03.11

新入会

正会員6名

石原 佑 宇都宮里梨子 川西 美玖
正源司智博 中基久和巨 永山つぐみ

学生会員10名（内、海外会員 5 名）

金指	凌	黒川しのぶ	繁田	智行	中嶋	観司	
仲西	空良	尚	偉	林	鍾沅	唐	古月
王	子丹	畢	曉雪				

休会

正会員 1 名

大久保芙美

退会

正会員10名（内、海外会員 1 名）

釜堀	文孝	櫻井	亮汰	佐藤	有理	白濱	力
美馬	義亮	宮澤	以銅	森	勇輔	矢口	忠憲
山本	祐輔	トウ	サンサン				

学生会員 2 名（打ち勝て外貨委員 2 名）

呉 妍琲 徐 方正

年間購読会員 1 件

全国大学生生活協同組合連合会

自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元にはない方は、本部事務局へご請求ください。

2023年度の年会費引き落としは、2023年5月8日付けにて引落をさせていただきます。宜しくお手配くださいます様お願い申し上げます。

本部事務局